

橋下徹大阪市長、松井一郎大阪府知事のオスプレイ訓練八尾受け入れ提案撤回、安倍晋三首相の訓練移設検討の取りやめを求める

日本維新の会共同代表・橋下徹大阪市長と同会の幹事長・松井一郎大阪府知事が、沖縄・米軍普天間基地に配備されている垂直離着陸機M22オスプレイの飛行訓練の一部を八尾空港で受け入れることを安倍晋三首相に提案、首相は小野寺五典防衛相に計画の検討を指示した。

府民・地元自治体になんの相談もない突然の訓練移設検討の提案は、自治体の長として見識を問われるものである。また、八尾空港は沖縄の普天間基地同様に人口密集地にあり、事故が起これば大参事を招く恐れがある。世界一危険といわれるオスプレイの訓練を大阪府下にまで拡大することは断じて許すことはできない。

沖縄県民の反対を押し切って昨年10月、普天間基地に配備されたオスプレイは、人口密集地や学校上空は飛ばさないなどとした日米合意をほごにし、傍若無人な飛行を繰り返している。普天間基地のほか米軍岩国基地（山口）を拠点に本土でも飛行を繰り返している。さらに、米海兵隊は今夏、普天間基地にオスプレイ12機の追加配備を決めている。

橋下市長や安倍首相は、訓練の移転は沖縄の基地負担軽減のためとしているが、沖縄県民の願いを歪曲し、国民をあざむくこじつけである。沖縄県民の総意は全県議会議員と41全市町村首長・議長が連名で提出した安倍首相宛『建白書』が示したように、「オスプレイの配備を直ちに撤去すること」「米軍普天間基地を閉鎖・撤去し、県内移設を断念すること」である。

訓練の一部移転は、沖縄県民を苦しめるオスプレイの普天間基地配備を固定化し、その痛みを全国に拡大させるものである。沖縄でも全国でも米軍基地そのものの撤去こそ、政府に求められている。

私たちは国民のいのちと健康を守ることを使命とする歯科医師の団体として、普天間基地の無条件撤去とオスプレイ配備の撤回を求めてきた。私たちは、橋下市長、松井知事のオスプレイ訓練受け入れ提案に強く抗議し、撤回を求めると共に、安倍首相に対し八尾空港への訓練一部移設の検討を取りやめ、沖縄県民と国民を危険にさらすオスプレイの配備撤回と訓練中止を求めるものである。

2013年6月11日

大阪府歯科保険医協会
政策部長 戸井逸美